

令和5年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) りんでん認定こども園

観点	①心の育ちを優先し、生きる力の基礎を育む教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	<ul style="list-style-type: none"> 園の現状として子ども主体の保育を目指し、乳児クラスではひとりひとりに寄り添えるように、担当制保育を取り入れ保育者と子どもの関わりを増やしている。幼児クラスでは集団での関わりが増え、遊びや生活などのルールがある中で子ども主体の保育を取り入れている。課題としては、乳児クラスでは、担当制保育でのグループ活動方法や1日の流れなど模索中であり、幼児クラスでは、子ども主体の保育をするには自由遊びやミーティングの中からのような所に視点を置き、子どもの興味にそって遊びを広げていくかが課題となっている。
目標	<ul style="list-style-type: none"> 園生活全体を通し成長するうえで一人一人の発達に応じた保育を丁寧に行い、心も体も成長の土台づくりをし、最終的に小学校へつなげていけるようにする。子どもたちが自主的に色々なことに取り組みたいと提案し、自分たちで考え実現できるような環境づくりを行い、子ども主体の保育ができるようにする。
目標達成に向けた具体的な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 乳児クラスでは担当制保育を取り入れ、ひとりひとりに寄り添いながら、家庭に近い環境になるよう少人数での保育を進めている。また成長にあった指先あそびを充実させたり、体の基礎となる部分がしっかりと成長できるよう体幹遊びを取り入れた環境づくりを心がけている。 幼児クラスでは、自由遊びの中で夢中になれる時間をつくる中で、子どもたちが気付き発見出来るようにしている。園庭の虫探しから発展し、水辺にはどんな生き物が住んでいるかという子どもの興味から、子どもたちが調べたり考えたりする活動に広げる。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 乳児クラスでは、まだ試行錯誤の段階ではあるが担当制保育を取り入れ、少人数になったことでひとりひとりに合わせた落ち着いた関わりができ、活動の中で愛着関係が結びやすくなってきた。指先あそびのおもちゃは子どもの意欲や関心に合わせて1週間を目安に交代することで、再度興味を持ち遊びだすことが多い。 幼児クラスでは、全体的に元気があってしっかり遊べるようになってきている。子どもの気付きや発見を大切に、子どもの思いに寄り添いながら世界観を共感している。水辺にはどんな生き物が住んでいるかという興味から、実際に近隣の田んぼに散策に行きカエルを捕まえる姿がみられた。えさのやり方や飼育方法などを調べることにより、さらに生き物に興味を持つようになった。ミーティングを取り入れることで少しずつではあるが、自ら進んで意見を出す姿が見られたり、友だちと意見を交わしたりしながら自分たちなりの案を生み出す事ができるようになってきた。
評価	<p>乳児クラスにおける担当制の導入は、少しずつ成果があらわれている。子どもたちが落ち着いて生活できたり、保育者との信頼関係が築かれているように感じられる。時間配分やグループでの活動のあり方について細かい工夫がなされており、その努力が子どもたちの姿に出てきているといえる。幼児クラスにおいては、子どもたちの主体的な活動を引き出したいという先生方の願いが具体化している。ミーティングを通じた話し合いによって、興味関心のあるテーマについて調べたり、実際に出かけて虫やカエルを捕まえたり、遊びの内容や方法を自分たちで考えたりといった活動が活発に行われている。保育者主導の保育から、子ども主体へと保育が転換しつつあることが強く感じられる。今後は、乳児・幼児ともに今目指している方向をさらに深められるよう期待したい。</p>